

お忙しい中教育後援会総会にご出席していただきありがとうございます。平素の本校教育へのご理解とご協力に感謝いたします。

さて、昨年三月から新型コロナウイルス感染症対策が求められ、今年になっても、緊急事態宣言等の発出が繰り返されるなど、油断できない状況が続いています。ウイルスが従来株から変異株へと置き換わり、感染力が強くなり若い人の感染も増えており、山口県でも学校クラスターが発生しています。これまで本校でも、通信制・全日制ともに、校外での少数の生徒の感染がありましたが、幸い校内での感染拡大に至ることなく推移しています。

こうした中で、今後の教育活動が安全性を高めて実施できるよう、山口県による高等学校の生徒・教職員に対する一斉PCR検査が実施されました。任意の参加ではありますが、多数の生徒・教職員が検査に参加し、検査を受けた全ての生徒が陰性であったとの報告が届いています。このような対策による予防とともに、ワクチン接種も少しずつ進んでおり、必ず感染終息の日を迎えるはずですが、まだまだ油断できない状況であることに変わりはありません。当分の間、基本的な感染症対策の徹底について、生徒一人一人が意識を高く持って行動するよう学校では指導していきます。ご家庭でも、十分ご注意頂くようよろしくお願い致します。

さて、昨年度は、前・後期合わせて42名の卒業生を送り出すことができました。そのうち、上級学校に進学した生徒は、四年制大学に5名、短期大学に2名、専門学校へ18名となり、進路実績も充実してきております。本年度については、4月の生徒数が108名でスタートしました。本校は、通信制といえどもメールや電話での連絡をこまめに行い、可能な限り顔の見える関係をつくり、つながりを大切にしながら指導にあたっています。また、今年度も感染症対策のため、学習活動や校外での社会体験活動などに、今後、影響が出ることも予想されますが、可能な限り、計画に添った学習指導と多様な学習機会の提供に努め、社会人としての自立に向けての基礎を確立できるよう支援してまいります。

今や通信制教育は例外的な学校教育体制ではなく、社会の多様なニーズに応える不可欠な選択肢の一つであります。通信制課程のメリットを生かして、生徒一人一人が自分の良さを伸ばし、立派に卒業証書を手にしてくれるよう、保護者の皆様とスクラムを組んで生徒の高校生活を支えていきたいと思っております。どうか、保護者の皆さまのご協力をお願いいたします。

聖光高等学校校長

教育後援会会長挨拶

会員みな様、本日はご多忙のなか、総会にご出席していただきありがとうございます。

聖光高校通信制は今年で19年目に入りました。新しい学びの場として、県東部では、なくてはならない存在となり、卒業生も704名と各方面で活躍しています。この教育後援会の活動も今年で18年目になり、通信制に在籍している生徒さんにとって、大切な活動となっています。

私事ですが、我が子はこの学校に入学する前、長いこと不登校・引きこもりという状態でした。2年前の今ごろは登校日の度に疲れ果て、続けて通えるのか心配でしたが、一週一週、なんとか今週も行けたね、という月日を重ね、今日は学校でこんなことがあったよ、という話も増え、徐々に元の明るさが戻ってきました。

100のことを自分に課して、100できないと落ち込む...という考え方の子だったのが、10でも20でも、ゼロじゃないよね、と自分を認めることができるようになってきました。これも先生方のご指導のお陰と心から感謝しております。

子どもが10人いれば10通り、100人いれば100通りの個性があり、ご家族のご苦勞も様々なでしょうが、卒業という同じ目標を持つ仲間と思っています。現時点では残念ながら交流もままありませんが、今後も校長先生を始め先生方と協力し、会員一丸となって子ども達の成長を見守り、学習活動・特別活動活性化のためにご協力をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

令和3年度教育後援会会長